

一月の衛生

医学博士 齋藤文雄

— 『幼児の教育』第42巻第1号  
(1942年) から —

倉橋先生の御命令で暫らく皆さんのお仲間入りをさせて戴き、職域奉公をいたす事になりました。私は医師ですからその方面から御協力申し上げて、皆さんと一緒に、強い明るい日本の子供を作ってゆき度いと存じます。

冬籠りまた寄り添はんこの柱 芭蕉

冬の陽を泌々と浴びている俳聖の姿が眼に見える様です。然しこれは老人であればこそ柱が頼りになるのです。子供はそんな事では満足しません。寧ろ思い切って日の当る外に出て遊びます。それでいいのです。冬こそ日は短かい時、日の光りの弱い時ですから、出来るだけ子供は日当を利用いたしましょう。どんどん外で澄み

切った綺麗な空気を吸って遊ばせて下さい。

向うから「マスク」をかけた坊やが来ます。感心にきちんと鼻と口が隠れています。然し待てよ。霜はおりているが今朝は風も無いぞ。埃りも立っていないぞ。坊やは別に風邪をひいている様な様子も無いようだ。まさか坊やのお母さんは、空気が冷たいからと云うので「マスク」を掛けてやった訳では無いだろうと思うが。人混みの中、埃の多い所、そこでこそ「マスク」は必要だがこんな澄み切った朝の空気をわざわざ「マスク」で閉め出してしまふ様な無駄をするお母さんは居ない筈だが。

お家の都合でお子さんの幼稚園を休ませてはいけませんね。ことに冬は身体の鍛錬に絶好の時です。寒かろうが雪が降ろうが何のその、幼稚園を休みたがるのはお母さんでお子さんでは無い事の方が多い様です。お天気の良い日こそ鍛える日です。身体も丈夫になります。精神も堅固になります。不屈不撓の精神と云うのはこ

う云う所に芽生える事を忘れないうで戴き度いものです。

夜お床に入る時はどんな寒い日でも真裸体に着物を脱がせて寝巻きと着替えます。たとい一日でも「シャツ」を着たなりで寝せたりしてはいけません。風邪ひきの予防に大切な事です。朝起きたら直ぐに又着替えます。この時も余り暖めたりして着せるのはよくない事です。

お正月のお休みで喰べ過ぎはいたしませんか。今年は何が不足で余り喰べすぎでお腹を毀した様なお子さんは少ないでしょう。物が不足と云う事は国全体がそうなのでから皆な辛棒しなければなりません。然し大人と違い育ち盛りの子供では、分量は兎に角、喰べ物の種類が偏しては困ります。丈夫に育たないからです。卵や牛肉が一週間も二週間も食べさせられない。そうしますと不足しますのは何よりも先ず「ビタミン」のAやDです。これは一番弱った事です。ですから、この冬は何処のお家でも肝油を備え

ておき度いものです。油の儘の肝油でも良し、球になった肝油でもいゝですが、兎に角、これどんな食物の窮乏時代が来ても、鳥眼や、蒼白い顔にならない様にしてゆき度いものです。

\* 本文は新漢字、現代仮名遣いにし適宜ルビを振りしました。

(編集部)

### 昔の『幼児の教育』が 手軽に読めます

1901年の『婦人と子ども』創刊から、大正時代に『幼児の教育』と装いを変えて、これまで110余年の全巻全号、日本の幼児教育・保育の軌跡をたどる貴重な資料を自由にダウンロードしてお読みいただけます。

〈幼児の教育〉〈お茶の水女子大学〉〈教育・研究セレクション〉で検索してください。